ソフトテニスの海外における受容に関する研究
ーカンボジアの受容に着目してー

第4回　ソフトテニス研究会

発表者　浅野 進之介(日本体育大学大学院博士前期課程)

背景・目的

　ソフトテニスは、明治時代に日本へテニスが伝来する過程において、専用のボールの代わりにゴムまりを代用して行われたことに由来する日本発祥のスポーツである。
　代替の用具を使って行われたテニスは「ソフトテニス」となり、ルールの改正や用具の改良などが繰り替えされ競技スポーツとして国内で発展していく。現在はアジアを中心に海外にも広がっている。日本ソフトテニス連盟の公式HPには「(公財)日本ソフトテニス連盟では、ソフトテニスの発展のため国際普及活動に力を注いでおり、韓国・中華台北と共に、東南アジア等への普及も積極的に行っている」と記述されており、競技の発展において、ソフトテニス発祥国の日本の働きは大いに寄与していると考えられる。しかし、ソフトテニスは多くの競技者がいながら国内外、共に依然としてマイナースポーツのイメージから抜け出せていないのが現状である。近年、競技者や愛好者から声が上がっているオリンピック競技への参加についても、未だ具体的な方策は出ていない。このようなソフトテニスが受容されることは、海外の地の人々にとって有益となり得るのだろうか。
　それらを解明するために、まずはソフトテニスの現状を踏まえた上で今後の発展に向けて、海外への伝播・受容・発展の実情を捉える。そしてソフトテニスが海外の国や地域に受容された経緯と、何をもたらしたのかを明らかにし、ソフトテニスの海外における立ち位置、今後の発展に向けた策を考察するべきと考えた。そこで本研究では独特の経路で近年急成長を見せているカンボジア代表ソフトテニスチームの様子を監督及び関係者に着目して研究し、ソフトテニスの発展について考察する。

方法

　文献調査及びソフトテニス カンボジア代表監督を中心とする関係者へのインタビュー調査によるものとする。

結果・考察

　カンボジアで行われていたソフトテニスに日本人の指導者が加わることにより、競技力の向上及びソフトテニスの専門知識が取り入れられていた。中でもカンボジア代表監督となる日本人指導者の指導はカンボジアチームにこのような大きな影響を与えていたことが明らかになった。
　更に今後は、指導者からの影響を受容する者の視点から見た競技の変遷を調査し、カンボジアでソフトテニスが果たす役割や、海外での受容の詳細について解明する。

カンボジアの児童にソフトテニスの指導を行うO氏

代表チームの活躍の功績によって改修された国立競技場内テニスコート(左が2016年時点、右が2017年時点)

カンボジア代表チームの戦績

年	成績等
2014	カンボジアソフトテニス連盟設立
2015	世界選手権大会 出場
2016	マレーシアインターナショナル ・男子U－21シングルス 3位 ・男子U－15シングルス 3位 ・男子U－21ダブルス　3位 ・男子U－18ダブルス　3位 ・男子U－15ダブルス　3位
2017	第6回タイオープンインターナショナルソフトテニス大会 出場 チャイナカップ 出場 コリアカップ（1st Soft Tennis Asian cup） ・コンソレーションマッチ女子国別対抗戦 準優勝
2018	第7回タイオープンインターナショナルソフトテニス大会 出場 アジア競技会 出場
2019	チャイナカップ 出場 SEA GAMES Philippine ・男子国別対抗 3位 ・女子シングルス 3位 世界選手権大会 ・男子国別対抗コンソレーションマッチ　優勝

今後の研究計画

・先行研究の検討
・追加のインタビュー実施
　(監督及びチーム関係者)
・カンボジアの地域情報、スポーツ行政等についての調査

今後の課題

　カンボジアではソフトテニスを指導する人物によってその地域の環境や人々に大きな影響が与えられた。今後、さらにカンボジアにおけるソフトテニスに関わる組織やそれらの構造の変遷を調査し、海外での受容の一事例として詳細を明らかにしたい。